

事業所名

わくわくキッズ倶楽部いこいの家 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

R8 年

1 月

17 日

法人（事業所）理念		たったひとつの命を大切に共に育ち合う。						
支援方針		子ども一人ひとりの発達特性や気持ちを大切に、安心して過ごせる居場所づくりを基本方針とします。遊びや集団活動を通して、生活習慣や社会性、コミュニケーション力の向上を支援します。また、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を育み、「できた」「楽しい」と感じられる関わりを重視します。保護者や関係機関と連携し、成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。						
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善を図り、基本的な生活スキルの定着や安定した生活リズムの形成を支援します。睡眠・食事・排泄・身だしなみなど日常生活に必要な習慣について、年齢や個々の特性に応じた支援を行います。食を営む力を大切に、感覚特性に配慮しながら安心して食事に取り組めるよう支援します。また、咀嚼・嚥下・姿勢保持など身体面にも配慮し、活動や学習場面を通して自立につながる力が無理なく身につくよう、環境設定や関わり方を工夫します。						
	運動・感覚	運動や遊びを通して、姿勢保持や身体操作、バランス感覚の向上を図り、日常生活や学習、集団活動につながる力を育成します。感覚特性に配慮し、安心して挑戦できる環境を整えます。理学療法士や作業療法士等の専門職と連携し、個々の特性に応じた運動プログラムを実施します。触覚・固有覚・前庭覚への適切な刺激を取り入れ、成功体験を積み重ねることで、調整力の向上や主体的な活動参加を促します。						
	認知・行動	一人ひとりの特性や理解の仕方に応じ、見通しを持って学習や活動に取り組めるよう環境設定や支援方法を工夫します。視覚支援や構造化を活用し、「着席」「大人や指示を意識する」「指示に沿って行動する」など、課題に向かう基本的な行動を定着させます。苦手なことにも段階的に挑戦し、成功体験や達成感を積み重ねることで、「やってよかった」と感じられる自己肯定感や意欲の向上を支援します。						
	言語 コミュニケーション	一人ひとりの特性や理解力に応じ、言葉の理解力・表現力・やりとりの力を高めます。視覚支援や具体的な説明を用い、指示理解や語彙の定着を支援します。「要求」「報告」「相談」「聴く」「観察する」など、場面に応じた適切なコミュニケーションを学びます。集団活動や日常生活を通して実践的な経験を重ね、言葉に加えジェスチャーやカード等も活用しながら、円滑な対人関係や自己表現につなげます。						
	人間関係 社会性	ソーシャルスキルトレーニングを通して、「順番交代」「役割理解」「ルールを守る」「指示に沿って行動する」など、社会生活に必要なスキルの習得を支援します。「感情に気付く」「感情に名前をつける」「対処法を考える」など、気持ちのコントロールを練習します。ストレスが強い場面では、子どもの気持ちに寄り添い、適切な発散方法や対処の仕方を共に考えます。小集団で主体的に活動できる環境を整え、協調して物事を遂行する力を育みます。						
家族支援		定期的な保護者面談や連絡帳を通して、子育てに関する悩みや不安の相談支援を行います。日々の様子を共有し、家庭と連携した支援につなげます。また、公認心理師による巡回相談を実施し、専門的な助言を行います。			移行支援		進学、進級等の環境変化を見据え、集団生活に必要な生活習慣や対人関係スキルの獲得を支援する。保護者や関係機関と連携し、特性や支援方法を共有し、安心して次の生活の場へ移行できるよう支援します。	
地域支援・地域連携		地域資源を活用し、関係機関や地域住民と連携を図りながら、子どもが安心して地域で生活・成長できるよう、継続的な支援体制の構築を行います。			職員の質の向上		社会福祉協議会等の研修参加や法人内研修を通して専門性の向上を図ります。あわせて事業所間で情報共有を行い、支援内容の改善や職員全体の支援力向上につなげます。	
主な行事等		サッカー教室・運動教室・季節のイベント（夏祭り・ハロウィン・クリスマス等）・サッカー大会（年2回） 課外活動（動物園、水族館等公共の施設・市電、JR等の乗車体験） 就労体験・保護者参観・親子体操等						